



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎「石叫」◆

「グラランド・キャニオン」

今月四日に家内・節子の妹、陽子と夫の亜輝男さん夫婦が日本から見えた。義母、小野静江の一周忌のためである。彼の訪米は二度目で、二十三年ぶりである。翌朝のサンデーには母の思い出を語る会が教会でもたれ、亜輝男さんには家内の看護のために何度も何度も日本から陽子を送ってくれたことに対して、「みぎわ会」(婦人会)からお礼の花束が送られた。今までそのようなお礼をしてもらったことが無かったというので、彼はことのほかご満悦のようであった。

その翌日からグラランド・キャニオンに出かけた。それは山が大好きな彼のたつての願いであった。サウス・リム(南壁)までは五〇〇マイルで8時間のドライブだ。僕としては三度目のおとないとなる。そのハイライトは翌朝の日の出であった。六時には出るといので、薄明かりの中三〇分前からメーザー・ポイントに立つ。と言つても、日の出までの間、僕はトレールを歩きたかったので、カメラを構えるのは亜輝男さん夫婦である。ピス又尖塔の背後から昇った旭日が放つ光線が一瞬に天空をよぎったかと思うと、はるか地平線にまで走ってゆく。秒々刻々、空が青みを帯びて雲がその白さを増してゆく。光陰によって峡谷がうっすらと浮かび上がったかと思うと、谷あい徐徐にその広がりが増してゆく。幾つにも重なり合った色とりどりの地層がそれぞれ微妙に赤みを帯びてゆく。それはあたかも、お互いが自己主張をしているかのようだ。それはそれは言葉では名状し難い幻想的な世界である。人がグラランド・キャニオンの魅力を語る時、太陽と大地との織りなす陰影と色彩の雄大な芸術を言うのだから、その素晴らしさというのには、峡谷ができるまでの何億年という時間の隔たりを一瞬に見せてくれる神の偉大さに触れるからではあるまいか。だから人はそのような大自然の前に沈黙する。言葉がないのだ。否、言葉を出してはいけぬ。霧囲気がそこには漂うからなのである。僕は感動していた。そして自然の織りなす神のみ業に、しばらく天地にカメラを向け続けていた。

詩篇の記者は「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。話すことなく、語ることなく、その声も聞こえないのに、その響きは全地にあまねく」(一九・1~4)と詠った。古来、人は自然を身て神を思い、神に畏敬の念を抱いてきたのだが、一体この大峡谷を見た時、人はことさらにその思いを一つにしたことであろう。神の偉大さと、そのみ業の素晴らしさに!

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

